委 員 会 会 議 録

（社）滋賀県トラック協会

会 議 名	平成２３年度　第6回「トラックの日」の事業実行委員会
開催日時	平成２３年１０月１８日（火）　１０：３０～１２：００
開催場所	滋賀県トラック総合会館　３Ｆ「会議室」
出 席 者	委員１５名、事務局４名

協　　議　　内　　容

定刻１０時３０分開会。開会にあたり岡田会長から挨拶があった後、引き続き薩摩実行委員長が議事進行を行った。

（1）ぐるっと・びわ湖・クリーンアップの実施結果について

薩摩実行委員長から下司部会長に報告を求められたところ、資料１及び湖北支部のアンケート結果まとめの概要を報告。また当日は特に事故等問題は聞いていない。東北三県の物産品が余った支部もあると聞いているとの報告があった。

続いて、各支部から報告があった。

（湖東支部）

- 今年で４回目となり、活動の地区担当割も同じであり熟知してもらっているので問題はなかった。
- 今年は学校や地域の運動会と重なったところもあったため昨年度より若干参加人数が少なかった。
- 帽子やゴム手袋は支部で余っている。来年は購入時に考えてもらってはどうか。
- 東北三県の物産品は場所の都合もあり、活動から帰って来た人から順に販売し概ね売れた。

（彦根支部）

- 当日欠席は殆どなかった。
- 活動地域も例年同じところでスムーズであった。
- 帽子・ゴム手袋は会社別に渡しているので支部では残っていない。
- 東北三県の物産品は場所の都合もあり、後日販売した。

（湖北支部）

・　問題なくスムーズに行えた。
・　参考資料に基づきアンケート結果の詳細について報告があった。

（湖南支部）

・　準備段階から協会職員に手伝ってもらえたのでスムーズに行えた。
・　今年は開会式以前に出発させてもらった班もあり、昨年より少し長い時間活動ができた。
・　物産品については、甲賀支部と合同の販売を行ったが、牛タンしぐれは完売したが、それ以外は半分売れ残った。参加者に聞くと、元から購入する気がない人や、もらった参加費２，０００円を合わせて家族で昼食に行く人も多かった。又、閉会式までが間延びしたのも原因かも知れない。

（甲賀支部）

・　例年同じ会員が参加してもらっており、他の会員も出席してもらいたい。
・　当日欠席は少なかった。
・　閉会式に間に合わない班もあったので、今後、もう少し班を多くし、持ち地域を細かくすることで対処したい。
・　ゴミの回収に時間がかかった。
・　帽子が余っていた。帽子をベストに変え、他の事業でも使えるようにしても良い。
・　前日、協会職員に準備を助けてもらってスムーズに行えた。

（大津支部）

・　例年、同じ人が同じ区域を担当してもらっておりスムーズであった。
・　物産品の販売については、当日ではなく後日行う予定である。
・　支部では来年もこの活動を行うのか？という批判的な意見もあるが、代案は出てこないので次年度も続けていって良い。

（湖西支部）

・　スムーズに行えた。
・　物産品の販売については、当日ではなく後日行う予定である。

続いて、岡田会長から５年はこの活動を行っていくつもりである。次年度はもう少し工夫もしていきたい。次年度は近畿トラック協会を活用するなど、更に県民にアピールできるような広報も考える必要があると述べられた。

また、下司部会長から物産品の販売が済み次第、協会事務局に販売代金を持ってきて欲しいと述べられた。

（２）広報の実施結果について

薩摩実行委員長から中西部会長に報告を求められたところ、９月２９日に県庁記者クラブに於いてプレス発表を行ったが、昨年よりも多くの報道機関（５～６社）が参加してくれた。資料のとおり事前に社１社、当日２社の取材（掲載）もあった。１０月９日夕方６時３０分からびわ湖放送にて特別番組「トラック、被災地へ走る」が放送され、現地への仮設住宅部材の輸送を中心に、我々協会の事業及び活動についてアピールした。視聴者には、我々が日々、努力をしていることがわかってもらえたと思っている。特に松田副部会長にはこの企画については白紙の状態から携わってもらい、ドライバーの谷口氏についても大変お世話になった旨、感謝の意を述べられた。また、来年度以降も耳で聞くより、目に訴えていく広報の方がより効果的であることが今回、再認識できたと発言された。今回、協力していただいた大和リースにも出来上がったＤＶＤを持っていきたいと述べられた。

続いて事務局より、昨日までの視聴者プレゼントの申込状況についてメール１０６通、ハガキ４０通であること、又当日の視聴率についてはびわ湖放送ではとっていない旨報告があった。

出席委員より次の発言があった。

・　特別番組について当社の従業員は、我々が関わっていることであり大変感動したと言っていた。
・　番組を見た他のボランティア団体の人からも大変良いことをしていると評価してもらった。
・　クリーンアップ当日、たまたま通られた福島県の方から、物産品の販売を見てお礼の言葉を頂いた。又、たまたま来られた「抱きしめて　BIWAKO」の関係者もゴミ拾いを手伝ってくれたりして、我々の気持ちが少しずつ伝わってきたような気がした。今後も根強く続けて行きたい。

・　特別番組は良くできた内容であった。
・　今後も我々の行動を持ってトラック協会をアピールしていきたい。

・　この番組を見た人から、トラック協会は真面目な取組みをしていると言われた。

続いて岡田会長から、特別番組は内容もまとめ方も大変良かった。先程の「抱きしめて　BIWAKO」について当協会は後援団体に入っているが、県に交付金の適正な支給について要望に行った際、「抱きしめて　BIWAKO」に１万人の参加協力を要請された。我々はその一ヶ月前に道路を綺麗にすることで「抱きしめて　BIWAKO」に協力していると述べてきたが、今後、各支部でも強制ではないが出来るだけの参加協力をお願いして欲しいと述べられた。

（３）「びわこ地球市民の森」植樹事業の実施について

薩摩実行委員長から事務局に説明を求められたところ資料３に基づき報告。その広報として県の琵琶湖環境部を通じて県庁記者クラブへの投げ込みを行いたいと述べた。

また、この「びわこ地球市民の森」の植樹についても後、２～３年で植える場所がなくなってしまう。現在、草刈りなども依頼されていることを報告した。

この説明について、出席委員より、びわ湖放送に当日取材に来るよう依頼して欲しいとの発言があった。

続いて岡田会長は今後、これに代わる事業も検討していく必要があると述べられた。

（４）その他

事務局から先程話のあった「抱きしめて　BIWAKO」についてチラシにより詳細説明があった。

※　次回実行委員会は、組織改編が予定されているため年を越えてから新メンバー（予定者）で行うこととなった。

また、次回実行委員会は来年の開催となることから、びわ湖放送特別番組の視聴者プレゼントについては理事会で報告することになった。